



池には大きなニシキゴイが、気持ち良さそうに泳いでいます



笑顔で迎えてくれた吉村典子さん(左)と長女の村田由美さん

美しく手入れがされた吉村さんの家の庭



ちは、地震を乗り越えてきたんですよ」と典子さんは目を細めます。吉村さんの家は熊本地震で全壊しました。家を再建する際、かろうじて無事だった庭をどの部屋からも見渡せるように設計したそうです。

「今年も、主人が植えたサクラガリやツバキが花を咲かせました。娘たちと『お父さんも喜んでるね』と眺めながら癒やされています」と典子さんは、穏やかな笑顔を浮かべて話してくれました。

私財を投じ地域に尽力した森上卯平という人物

荘厳で風格あるたたずまいを見せる、木崎地区にある浄恩寺。創建は江戸時代の寛文12(1672)年で、浄土真宗本願寺派のお寺です。

ここには、大正時代に地域のために貢献した森上卯平(高明)氏の墓があります。



益城町から中国大陆を目指し、財を築いた森上卯平氏(提供=浄恩寺)



卯平氏が寄贈した浄恩寺の本堂



上/左から前住職の玉春誠哉さん、孫の一花ちゃん(1)、住職の勇樹さんと妻の幸美さん(31)

右/境内には卯平氏をたたえる記念碑が立っています



ります。卯平氏は明治時代に中国大陆に渡り、海外貿易などで財を成した人物です。明治12(1879)年に中尾地区の農家に生まれ、父親は船場(そうめん滝近く)で雑貨商や酒造業を営んでいましたが、時代の移り変わりにより廃業。その後、家運を挽回すべく、卯平氏は21歳の若さで故郷を出て大陸を目指しました。

大正6(1917)年には大連に商船会社を設立し、屈指の資産家となります。「卯平氏は、仕事の成功は神仏や古里のおかげと感謝され、地域のために私財を投じて尽力されました」と話すのは住職の玉春勇樹さん(39)です。

かつて浄恩寺は現在の場所より東方の谷口にありましたが、大正8(1919)年に移転新築され、その費用の全てを卯平氏が寄贈したそうです。

「卯平氏は、荒帆神社の敷地拡張や、架橋、木山から御船に通じる道路の整備など公共的事業のみならず、子どもたちに学資を提供されるなど、人材養成にも尽力されたようです」と教えてくれたのは、住職の父で前住職の玉春誠哉さん(70)です。

この地を長く離れても、古里を深く思い生きた卯平氏は、昭和4(1929)年に神戸で亡くなりました。51歳でした。今は、古里の浄恩寺の一角で安らかに眠っています。